

授業科目 研究プロジェクト演習VI

【担当教員名】  久保 雅義	対象学年	4	対象学科	理学・作業・言語・義肢・健栄・スポ・社会・看護・情報
	開講時期	後期	必修・選択	自由
	単位数	1	時間数	30

【一般目標：G10】  
 (通称UROP：The Undergraduate Research Opportunity Program)  
 実際の教員の研究活動へ関わる機会を学部学生に提供する。教員との活動を通じて、研究者としての教員とのつながりを深め、学生自身の将来の進路や研究の対象などについて学ぶことができる。

【行動目標：SBO】  
 1) 実際の研究活動のステージ進行（研究プランの開発、研究計画書の作成、データの分析および口頭／文書での発表）を理解できる。  
 2) 自らのプロジェクトの実施に必要なとされる、実用的なスキルや知識を身につけることができる。  
 3) 自らのプロジェクトの結果について、口頭／文書で発表することができる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題備考・担当教員
	スケジュールは担当教員との協議によって柔軟に決められるが、週一度以上の定期的なミーティングを持つことが望ましい。		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書				
その他の資料				

<p>【評価方法】                  UROP参加期間中の学生の参加時間、積極性、自立性、およびUROPプロジェクト発表会(Appendix 1)での発表の2つを総合してA-Dの5段階で評価する。                  %Appendix 1                  UROPを履修する学生は、指導教員の研究を補助すると同時に、自らの立案したプロジェクトを実施する。その成果について専門学会発表の形式にならない、履修期間の最後に公開方式で口頭で発表を行う。優秀なプロジェクトは新潟医療福祉学会での発表や学会誌への掲載が認められることがある。</p>	<p>【履修上の留意点】                  Note：履修上のガイダンスのアップデート、履修に関わる疑問の受付および回答等については電子掲示板に掲示を行います。                  1) 各学期開始日の3週間前にUROP募集が掲示される。学期開始日1週間前までに「プロジェクト計画書」を事務所に提出し、UROP運営組織(仮称：Appendix 2)で審査を通過した学生が履修登録できる。                  a. 「プロジェクト計画書」には、UROP参加により成し遂げたいゴール、プロジェクトのアイデア、およびおおまかなスケジュールが記載され、A4一枚を超えない。(用紙はサーバーからダウンロード可)                  b. 「プロジェクト計画書」には、提出時にゼミ担当教員およびUROP指導教員の認証を示すサインがなければならない。                  2) GPAが3.0以上でなければUROPへの応募は認められない。                  3) 複数の連続した期をまたぐ継続した応募も認められることがあるが、「プロジェクト計画書」は毎期に提出する。                  4) UROP終了時には「UROP記録表」、「UROP終了報告書」および「UROP評価表」を事務へ提出する。                  a. 「UROP記録表」には研究活動に携わった時間とその内容のメモが記録され、指導教員の確認サインを受ける。(用紙はダウンロード可能)                  b. 「UROP終了報告書」はUROP終了時に行われる「UROP発表会」での資料をまとめたものでA45枚を超えない。(用紙はダウンロード可能)                  c. 「UROP評価票」は通常の授業評価と同様のものである。                  %Appendix2                  複数学部の教員からなる運営主体で、UROPの周知および募集、UROP参加教員の把握と、学生が応募時に提出する「プロジェクト計画書」の妥当性のチェックが主たる業務となる。さらにUROP発表会の主催者となる。</p>
---	--